

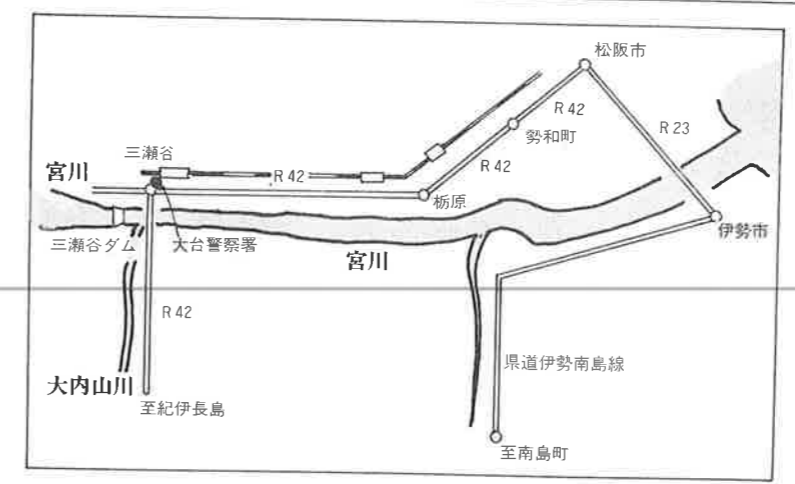
近畿一〇

宮み

川が

下流

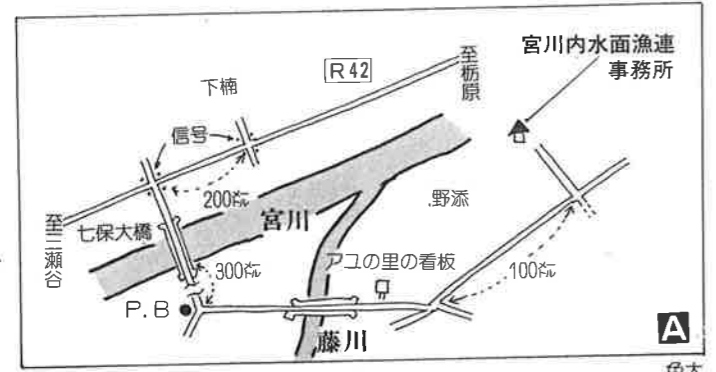
三重県



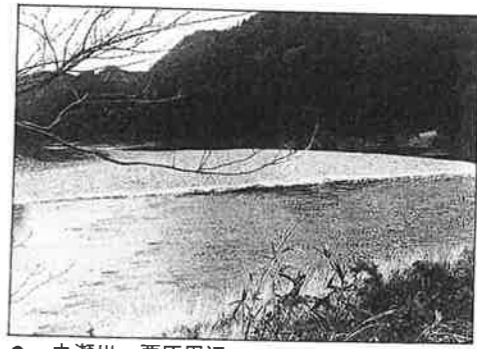
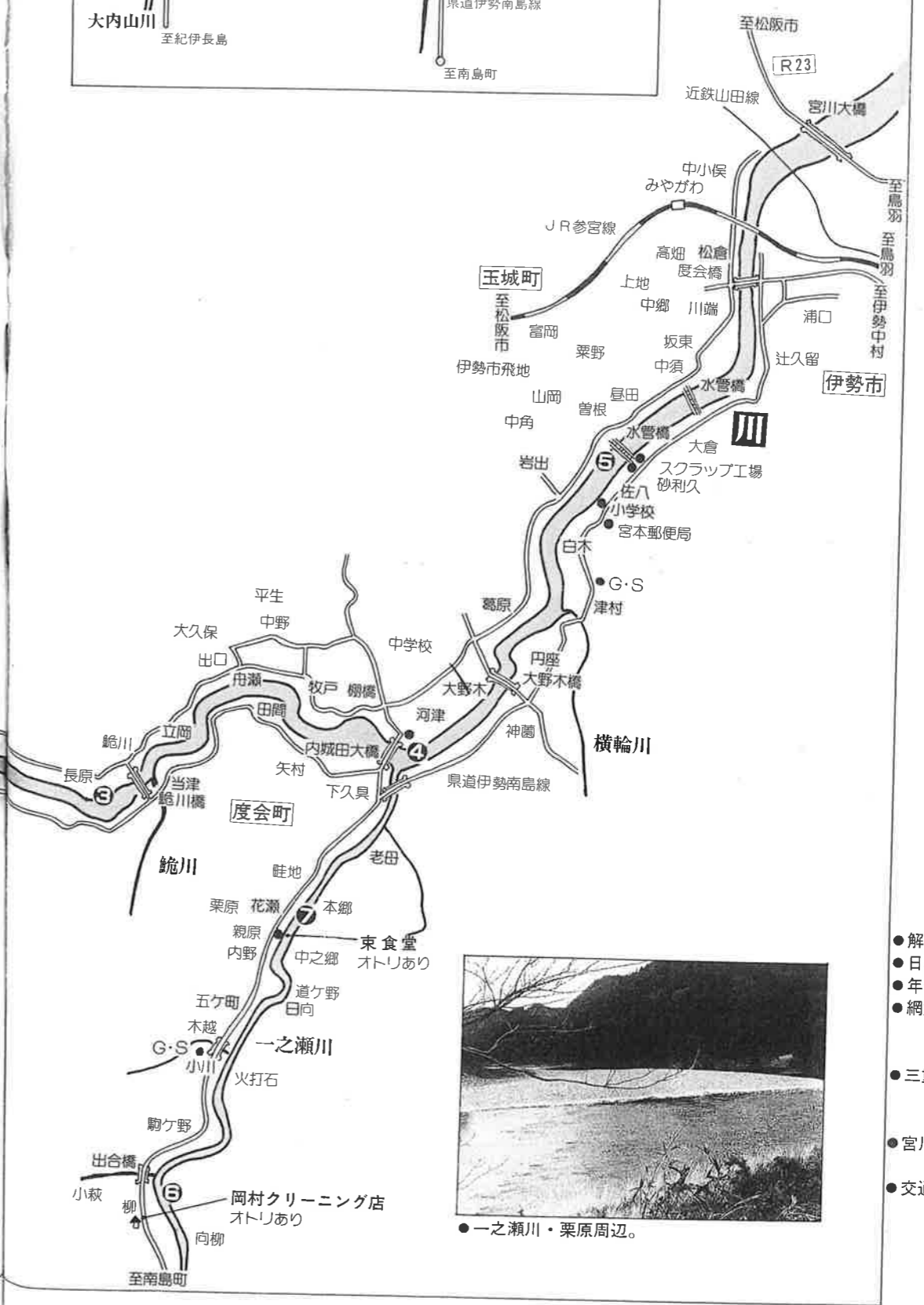
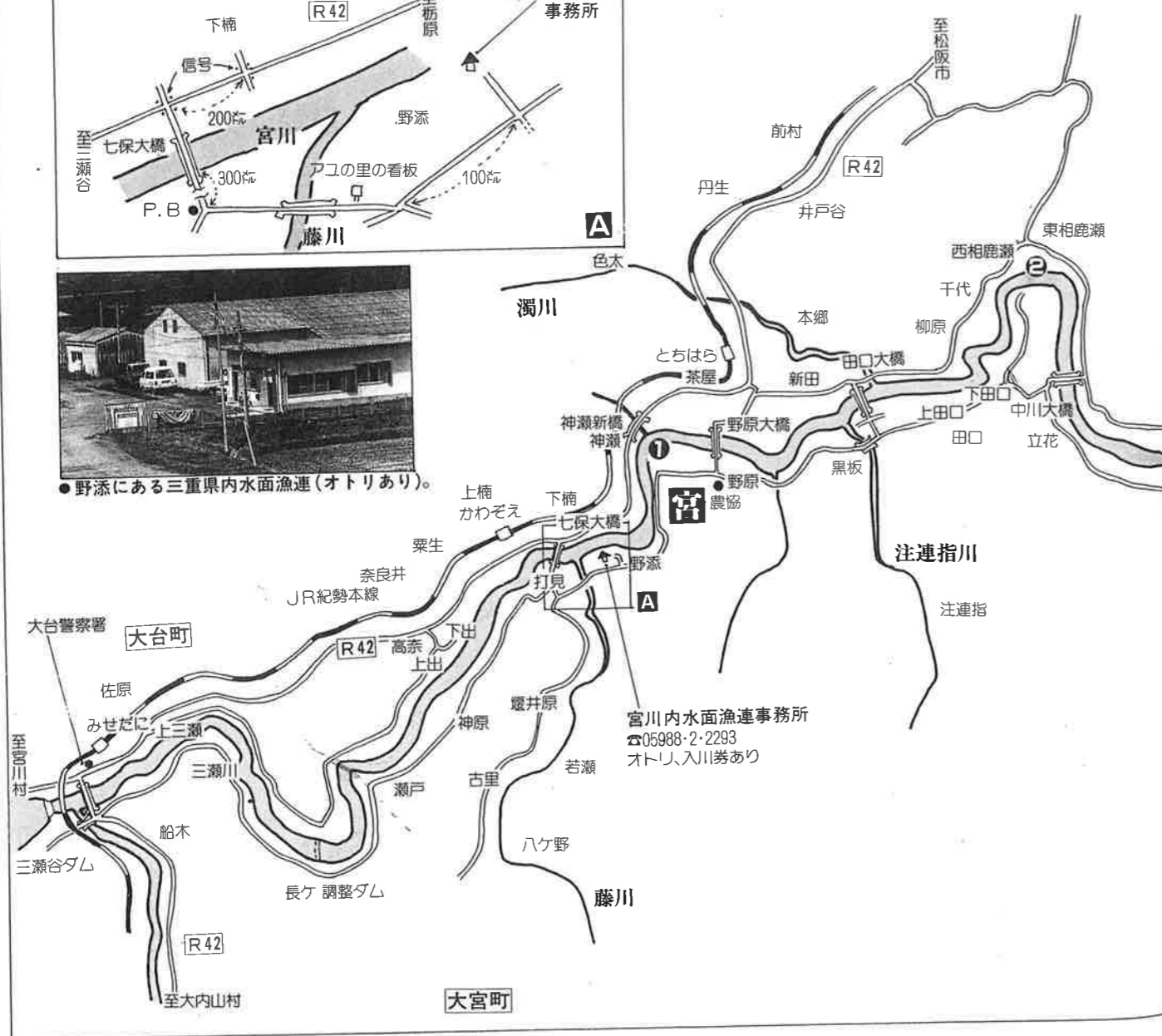
●野原周辺。玉石の川原を300mほど歩く。 ●内城田大橋下流。 ●伊勢市・佐八の専用区。



●佐八周辺は川原まで車でおりられる。



●野添にある三重県内水面漁連(オトリあり)。



●一之瀬川・栗原周辺。

- 解禁…6月1日
- 日券…1000円
- 年券…5000円
- 網解禁…6月1日(友釣り専用区は8月1日から)
- 三重県内水面漁協連合会… ☎05988・3・2293
- 宮川漁協組… ☎0596・25・0617
- 交通…車釣行が便利。R42号線、栃原から県道に入り各釣り場へ。伊勢市からは、県道伊勢南島線を利用するとよい。

# みやがわ 宮川下流

## 解禁から20年級の天然アユ。近年専用区も定着してきた

解説 ● 太田 行洋

●三重県●

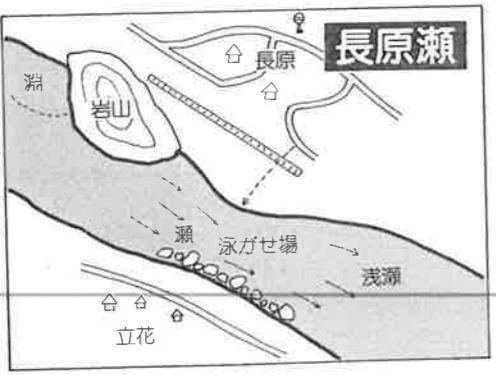
三重県下でも有数の大河、宮川。大杉村から宮川村を流れ、大台町、度合（わたらい）町を経て伊勢湾へと注ぐ。

流れを二分する三瀬谷ダムから上流部は、アユ釣り場としてあまりにも有名だ。しかし、下流部も有望なアユの川であることには変わりはない。というのも、河口から三瀬谷ダムまでの間、アユのソ上を遮るものはひとつも見あたらず、天然アユは本流筋から支流、さらに大内山川・長者野周辺まで毎年確実に湧き出ている。中河川である大内山川で、解禁からヒレの長い良型のアユが釣れるのはこのためである。

宮川下流区域は、三瀬谷ダムの調整用に作られた長ケ（なが）堰堤より下流。および、藤川、ニゴリ川、注連指川、鏡川谷、一之瀬川、横輪川の各支流。この間に友釣り専用区が現在七箇所設定されている。組合による放流は、毎年四月中旬に行なわれる。湖産アユ、人工フ化

釣りの好きな人なら、専用区下流部の浅瀬を狙ってみるといいだろう。川底は、丸石がまんべんなく敷き詰められており、流れ全体がポイントとなる。

入川は両岸から行ける。右岸からの場合、中川大橋、鏡川橋から右岸道路に入り、立花の集落から川へ入る。左岸からは、長原集落の道を行くと川沿いの堤防まで車で行ける。



を支流を中心に放流。したがって宮川本流筋は天然のソ上アユが主体となり、これらが解禁当初には20年近くまで育っている。

宮川下流がアユ釣り場としてとり上げられなかった理由に「職漁の川」ということがあげられる。

六月一日の解禁から網入れ、コロガシ釣りが可能で、地元三重県はもとより、京都、大阪、名古屋方面からもコロガシ釣りの人々が押し寄せている。

このような宮川下流部に友釣り専用区が設けられたのは一〇年ほど前になる。ここ数年で専用区も定着し始めてはいるが、毎年、友釣りに適する場所の変更があることには注意していただきたい。また、期間は七月三十一日までと短く、友釣りファンにとっては非常に残念なことである。

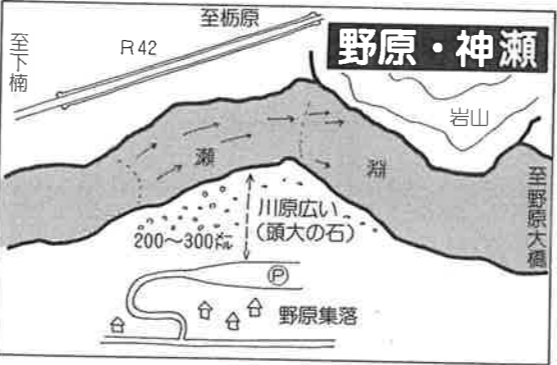
しかし、ガツカリすることはない。他の河川がアユのシーズンの終わりを告げる八月後半から、宮川下流

の本当のシーズンとなるからだ。この時期、天然のアユは25〜28センチほどに成長している。大アユを狙って毎年この時期に姿を現わす釣り人もおり、そしてまた翌年、決まったように同時期に顔を見せる。

宮川下流部の難点としては、ダム下流部であるため出水後三〜四日は濁りで釣りにならないことと、濁水が続くと水量が乏しくなること。これが大河の流れか、と目を疑うほど川は痩せ細るが、ただしこれは非常にまれなことである。

また、友釣りファンにとっては、友釣り専用区が短く、場所もわかりにくいことなどがあげられる。が、これは、先にも述べたように、宮川下流部はあくまでも「職漁の川」であることを忘れてほしくない。

### 1 野原・神瀬



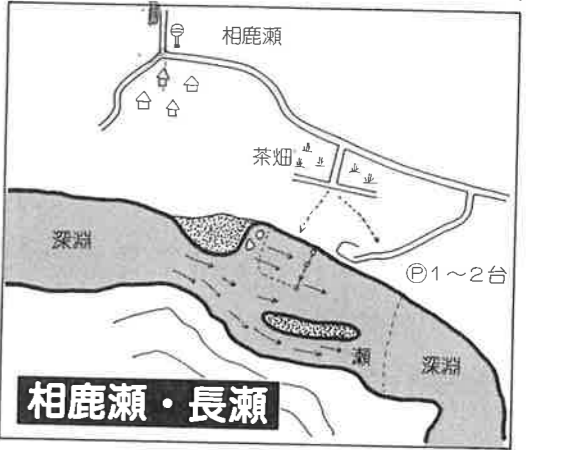
松阪方面からR42号線を下り、栃原にさしかかると、左手に宮川の大きな流れが目に入る。神瀬大橋のあたりである。ここが現在、最上流部の友釣り専用区にあたる神瀬の釣り場である。

入川は、R42号線からも可能だが、急斜面をおりねばならず、右岸からがやりやすいだろう。栃原から野原大橋を渡って右岸の県道へ。そこから約三分ほど上流に走ると野原の集落があり、集落内の道を奥へ進むと川原まで出られる。

ただ、川原の駐車場から川までは300メートル歩かねばならない。神瀬は200メートルほどで、底には頭大の石がびっしり敷き詰められている。水深はそれほど深くはない。底石すべてがポイントとなり、長竿で広く探っていくとよい。瀬のしもは対岸から山が張り出しており、このしも手に淵がある。出バミのアユを狙って瀬尻を泳がせてみるのもおもしろいだろう。また、瀬肩も見逃さないポイントだ。

### 2 相鹿瀬・長瀬

宮川の流れは、野原から下流は国道から離れる。栃原から左岸の道を走って新田、柳原の集落を抜けると相鹿瀬（おかせ）の集落に出る。民家が何軒かあるが、この裏手にあたるのが長瀬（ちようせ）の釣り場だ。入川は、集落内から歩いて行くか、集落はずれの砂利運搬用で作られた道路を使う。この道路を走れば川近



くまで車でおりられるが、駐車スペースは二台分しかない。長瀬は、右岸寄りの流れがポイントとなる。瀬はそれほど長くはないが、上、下流は深い淵となっている（砂利取りが行なわれて深くなっている）ので、アユは濃いものと思われる。

また、左岸から長瀬に広がる浅場は、やや増水気味のときに狙ってみればおもしろいだろう。長瀬は、地元の人が多い釣り場である。

### 3 長原瀬

中川大橋から下流の友釣り専用区である。地元の人には長原（ながわら）と呼んでいる。専用区上流は砂利採取のため掘り下げられて淵になっている。ここからしも手は水深もそこそこある一本瀬で、泳がせ釣りのポイントだ。瀬

### 4 内城田大橋下流

橋上流は保護区で、八月一日までは釣り禁止である。注意してほしい。橋下流で、宮川と支流の一之瀬川が合流している。合流点からしもに続く瀬が狙い目となる。しも手には深淵が広がり、上流部は保護区である。特大のアユの供給所を持つ釣り場である。

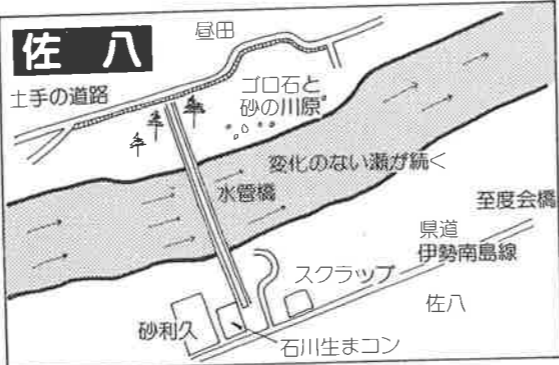
入川は非常に楽で、中学校横から川原までおられる道がある。また、場所的にもわかりやすい専用区なので、外来者に人気の高い釣り場である。

### 5 伊勢市・佐八

内城田大橋から県道伊勢南島線を下流へ。約6キロで佐八（そうち）の専用区に着く。なだらかなトロ瀬が延々と続き、これといって特徴のない流れが川幅いっぱい広がっている。ポイントを絞りにくい。小さな泡立ち、ヨレ場を見逃さず釣っていくといいだろう。

入川は、右岸、佐八からは石川生まコンとスクラップ工場の間の道を行くと川原まで車で入れる。左岸は、度合（わたらい）橋まで土手の道が続いている。どこどこに川原へおられる道がある。4WD車なら川原を自由に移動できる。

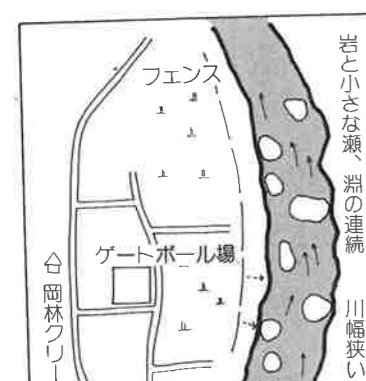
### 6 一之瀬川・柳



内城田大橋下流で本流と合流する一之瀬川にも二箇所、友釣り専用区が設定されている。

小萩地区、柳の専用区は一之瀬川のかなり上流で、川幅も狭く、湍相となる。

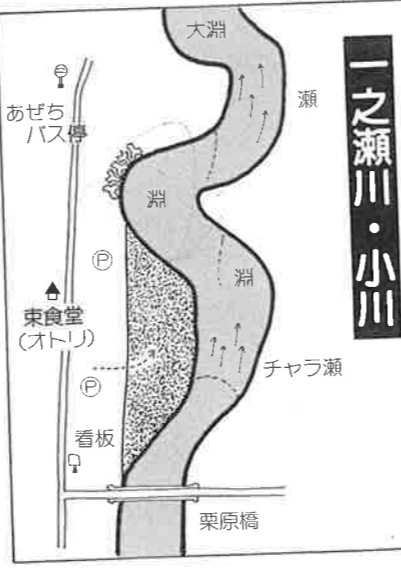
### 一之瀬川・柳



### 7 一之瀬川・小川

栗原橋下流から畦地（あぜち）周辺までが友釣り専用区となる。本流に近いとやや川幅も広くなっている。流れの回りが開けているため9月前後の長竿も扱えるが、7〜8センチの竿でも十分に対応できる。

本流に近い一之瀬川下流部は、解禁におもしろい目ができる場所である。年によってバラつきは見られるものの、本流の天然アユが一之瀬川に差し込んでくるため、解禁当初に20センチ前後の良型が入り掛かりになることもある。人気も高く、専用区にこだわらずに思ったポイントに入るの



柳の集落に岡村クリーニング店があり、ここでオトリを扱っている。しかし、ご主人がオトリを付けてくるので、常にオトリが確保できるとは限らない。

釣り場へは、岡村宅正面のゲートボール場横の道から。川幅はせいぜい7〜8センチ、左岸には木が生い茂り、立木も多い。短い竿が絶対有利になる。型は小さいが、ときどき本流から差してくる良型も釣れる。

も一策である。専用区域には東（たばぬ）食堂がオトリを扱っている。入川は、東食堂しも手に車を止めて楽に入ることができる。

全体に浅瀬と小淵が続く、醍醐味には欠ける。しかし、釣りやすく、初心者でもそこそこ釣果の上げられる釣り場である。編集部註 解説は、平成二年四月上旬によるもので、その後、友釣り専用区の変更に変わりました。平成二年度は、内城田大橋下流、長原瀬が専用区外となり、新たに牧戸の瀬、柳が瀬、下楠神瀬（漁連前）が設定されました。期間は六月一日〜七月一四日まで。また保護区（七月一四日）は次の通り。